

海流に影響される北方領土の気候

北方領土の東側は太平洋に、西側はオホーツク海にそれぞれ面しています。この海域は海流があり、季節によって、気候に大きな影響を与えます。



① 北方領土の気温

気温は、海洋気象の影響を受けて寒暑の差が緩慢で、冬でも寒さはそう厳しくありません。冬の平均気温は、零下5度か6度くらいで、根室地方とほぼ同じくらいです。しかし、夏の気温が月平均10度以上にのぼるのは6月から10月までで、8月でさえ平均16度くらいです。これは、海霧ガスのため日照時間が少なく、そのうえ海から冷たい風が吹いてくるからです。なお、択捉島紗那測候所の観測記録（昭和5～7年）によれば、年平均摂氏3度から5度で、月平均最低気温が零下5度以下の月は12月から3月までの4ヶ月、月平均最高気温が摂氏10度以上の月は6月から10月までの5ヶ月となっています。

② 北方領土の海霧ガス

海霧は、冬はほとんどなく、3月から9月にかけて発生し、6月から8月にかけてもっとも多くなります。



③ 北方領土の風雪

年間を通じて風の日が多く、特に、冬の間は雪をつけた風が何日も続くことがあり、ひと月のうち、暴風の日が20日くらいもあります。しかし、雪の積もる量は平均0.5mくらいで、あまり多くはありません。

降雪期は11月から5月上旬までで、流水は2、3月に多くなります。オホーツク側は1月から3月に海岸が結氷しますが、太平洋側は結氷しません。雨量は、年1,200mm前後です。



歯舞群島と色丹島の気候は、国後島や択捉島とほとんど変わりありません。得撫島から北の島々は、国後島や択捉島に比べて、気候がやや厳しいくらいです。

2 北方領土の動植物

動植物の分布状況を見ると、北方領土の島々は、北海道本島の動植物の分布と全く同じで、得撫（うるっぷ）島より北の千島列島のものとは違いがあります。

この境界線は「宮部ライン」と呼称され、これ以南は東亜温帯地方として日本中北部植物帯の北限を成し、これ以北は亜寒帯地方としてカムチャツカ南西地方（アリューシャンを含む）に属することが、1930年代初期に学問的に立証されています。

例えば、森林相について、宮部ライン以南は喬木きょうぼく林、特に針葉喬木林が発達して北海道類似性を有し、殊に国後島の林相が北海道に酷似しているのに対して、宮部ライン以北は灌木林形を成すなど、両者の間には顕著な相違があります。

北海道本島でおなじみの、エゾマツ、トドマツは択捉島にまで分布していますが、得撫島より北にはないこと、動物も北海道本島と国後島とは全く同じ状態にあり、一部は択捉島にも及んでいて、大体において北海道と同じです。

3 動植物の宝庫 北方領土

北方領土の近海は、世界の3大漁場のひとつに数えられる魚の宝庫です。サケ、マス、ニシン、カニ、エビ、貝など寒流系の魚介類が多く棲んでいます。また、これらの魚介類をえさとするトドをはじめ、オットセイ、アザラシなどの海のけものもたくさんいます。

北方領土の島々には、北海道本島でも多く見られるキタキツネ、ヒグマ、クロテン、エゾライチョウ、クマガラなどのけものや鳥が棲んでいるほか、カムチャツカ半島で繁殖した渡り鳥の通り道にあたるため、オジロワシ、エトピリカ、ウトウなどの珍しい鳥も見ることができます。

北方領土は自然がいっぱいメモ

Unit 3

北方領土の知識を深める！

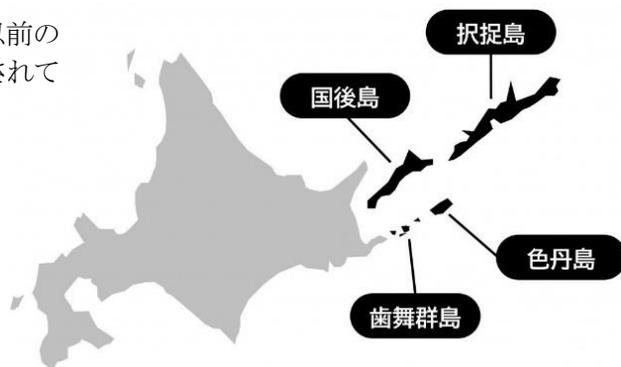
Input 4

北方領土の豊かな資源を知る！

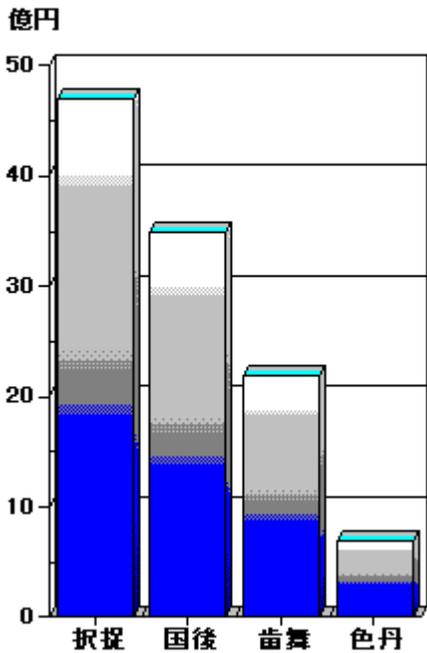


「気づく力」を高めるためには、
「知ること」です！

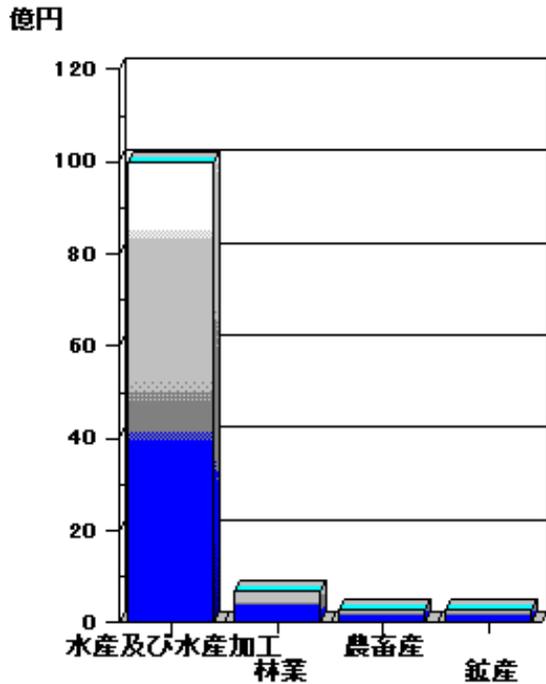
ロシアが法的根拠なく占拠する以前の北方領土では、どのような産業がなされていたかを学ぶことができます。



島別総生産額



総生産額



1 林業

北方海域は、海流と北海道本島と隣接諸島との間に陸棚を形成しているため、豊富な水産資源に恵まれております。水産資源の種類は、魚類ではまぐろ・さんま等の暖流系回遊魚、さけ・ます・にしん等の寒流系回遊魚、たら・すけとうだら・おひょう・かれい・あぶらこ等の寒流系底棲魚、甲殻類では毛がに・たらばがに・ずわいがに・はなさきがに・えび等、貝類ではほたて貝・ほっき貝、海藻類ではこんぶ・のり等多種にわたっています。

この地域の主要産業としては、さけ・ます定置網漁業、たら漁業、たらばがに漁業、コンブ採取業があげられます。水揚高は、1939年（昭和14年）から1941年（昭和16年）までの3か年平均で約5,600万貫、当時の金額で約5,200万円で、北海道全体の23%を占めていました。これを島別にみれば、歯舞群島3,500万貫（大部分がこんぶ）、色丹島300万貫、国後島1,200万貫、択捉島600万貫です。

水産加工については、乾製品、塩製品、缶詰製品、油脂製品等があり、1937年（昭和12年）には、当時の金額で600万円強の生産高をあげていました。

2 水産業

林業は、水産業について重要な産業でした。

歯舞群島には樹林というべきものではなく、色丹島は総面積の20%が白樺を主とする闊葉樹林でした。国後島は50%が原始林、10%が原野、40%が疎林で、択捉島は50%が原始林、5%が原野、20%が疎林、25%が無立木地又は山岳地帯のはい松林帯でした。

国後島では、とど松、えぞ松等の良質の針葉樹林が90%を占め、残りの10%が樺類及びびなら等の闊葉樹の混生林となっていました。また択捉島は、南部がとど松、えぞ松の純林、中部が色丹松及び闊葉樹の混生林、北部が闊葉樹林となっていて、中北部の山岳地帯は、はい松林帯、山嶺線は無立木地でした。

年間伐採量は3島を通じ約50万石で、その大部分は原木のまま根室や函館に送られ、建築、漁船建造その他箱材に使用されたほか、一部は島での生活のため魚を入れる箱などの原料となりました。

3 農業・畜産業

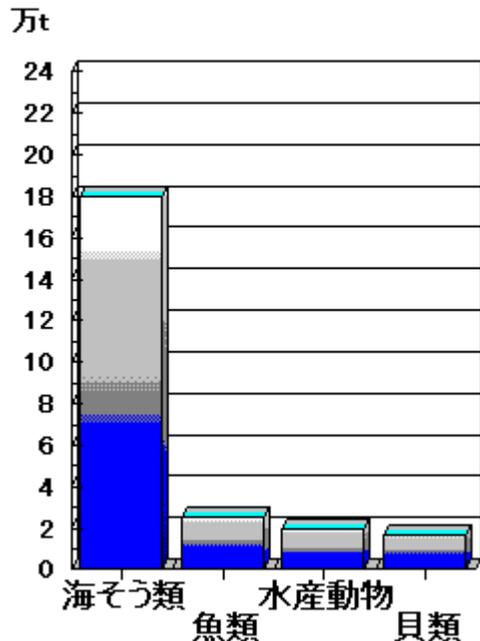
農業は、漁業のかたわら自家用野菜、飼料用燕麦及び牧草の栽培が行われていた程度で、専業農家は皆無に近い状況でした。しかし、当時の道庁の試作結果によれば、大麦、小麦、そば、じゃがいも、野菜等のほか、とうもろこし、らい麦、牧草等の飼料作物は、いずれも適作物とされていますので、適切な管理を行えば、北海道本島並の農業経営は十分に可能とされています。畜産については、四島を合わせて約53,000haの放牧地に約6,000頭の牛馬が放牧されていました。

4 鉱業

札幌通商産業局保管の鉱業原簿によれば、国後島及び択捉島に採掘鉱区が13、試掘鉱区が149、砂鉱区が7あり、登録鉱種は硫黄、金、銀、銅、硫化鉄、鉛、亜鉛、鉄、砂鉄、珪砂等でした。

北方領土の地下資源は、昭和初期、鉱業の発展に伴って未開発資源が重視され、1、2の企業の対象となるとともに、地質調査及び採掘が漸次進展しましたが、鉱床の規模は大きなものが少なく、自然的条件にも左右され、また資本規模も小さかったので、開発はあまり進みませんでした。しかし、これは調査の不十分と労力、資材、船舶の不足によるもので、将来におけるこの地域の地下資源の開発は極めて重要であると見られています。

水産物漁獲高



当時の資源メモ

A large white rectangular area with rounded corners, containing 20 horizontal dashed lines for writing.

Unit 3

北方領土の知識を深める！

Input 5

島々と本土北海道の
つながりを知る！



「気づく力」を高めるためには、
「知ること」です！

1 行政

得撫島以北の千島列島は、得撫郡、新知郡、占守郡の三郡から成り、根室支庁の直轄地で、町村制は施行されませんでした。択捉島以南は大正12年4月に町村制が施行され、国後島は国後郡泊村及び留夜別村の1郡2村、択捉島は択捉郡留別村、紗那郡紗那村及び薬取郡薬取村の3郡3村、色丹島は色丹郡色丹村の1郡1村となりました。歯舞群島には大正4年4月に町村制が施行され、花咲郡歯舞村の行政区域に属していました。

※ 歯舞村は昭和34年4月根室市に編入されたので、歯舞群島は現在は根室市に所属していません。

官公署、公共施設としては、営林官署、水産物検査所、鮭鱒孵化場、郵便局、警察官署、裁判所出張所、測候所、村役場、小学校があり、医療施設としては村医が配置されていました。

※ 2005年8月22日に、「紗那郵便局」を図案に入れた切手が発行されました。

※ 紗那郵便局及び水産会館の建物は、戦前、日本人により建設されました。北方領土での日本人の生活を示す貴重な建築物でしたが取り壊されました。



(上) 紗那郵便局
(2004年8月撮影)
(下) 紗那水産会館
(2004年8月撮影)

～独立行政法人北方領土問題対策協会HPより

2 交通・通信

北海道本土と連絡する北海道庁命令航路として、根室を起点とする根室近海線及び根室択捉線、函館を起点とする函館択捉線があり、根室・色丹間及び函館・年朮(択捉島)間は1年を通じ、他はおおむね4月から12月まで各2~4航海を運航していました。このほか、漁繁期には漁業者及び漁業組合等の運航する自由航路もありましたが、この地域において命令航路は枢要欠くべからざるものでした。

港湾の状況について見れば、天然の良港が多く、自然の湾形が利用されていましたが、港湾施設がなかったため基幹産業である漁業の発展及び冬期における交通、物資輸送の確実を期し難い状況にあり、港湾の施設整備が急務とされていました。

道路は、準地方費道、拓殖費支弁町村道及び町村費支弁町村道を合わせて認定路線の延長は1,000余kmでしたが、重要路線である準地方費道についても開削、改良を施行されたものはその半ばに達せず、工法も簡易工法によるものが多く、橋梁も不備で、車馬通行の可能な区間は極めて僅少でした。このような状況から、幹線道路の開削、整備が開発上の重要な課題でした。

通信については、秋勇留島を除く各島には郵便、電信を取り扱う郵便局が2、3局あり、色丹局と紗那局には無線電信施設があり、また根室・国後間には海底電信が設けられていました。

つながりメモ

A large white rounded rectangle with 20 horizontal dashed lines, intended for writing notes.